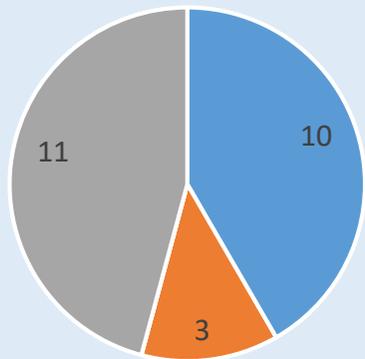


地域連携の推進に向けた事前アンケートの回答

東京都保健医療局医療政策部

事前アンケートの主な意見（区中央部）

地域医療連携システムの導入状況



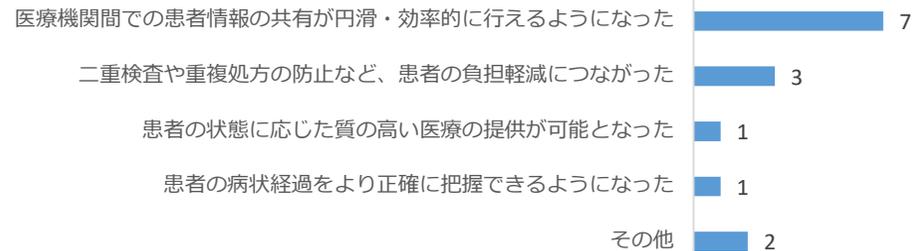
- 地域医療連携に関するシステムを導入している。
- 地域医療連携に関するシステムを今後導入する予定がある。
- 導入予定なし

病院としての主な機能別の導入状況

病院としての主な機能	病院数	うちシステム導入済
高度急性期	10	7
急性期/サブアキュート	6	1
回復期/ポストアキュート	0	0
慢性期	0	0
ケアミックス（急性期・回復期）	5	1
ケアミックス（回復期・慢性期）	0	0
その他	3	1
計	24	10

■ 導入済みの病院の回答

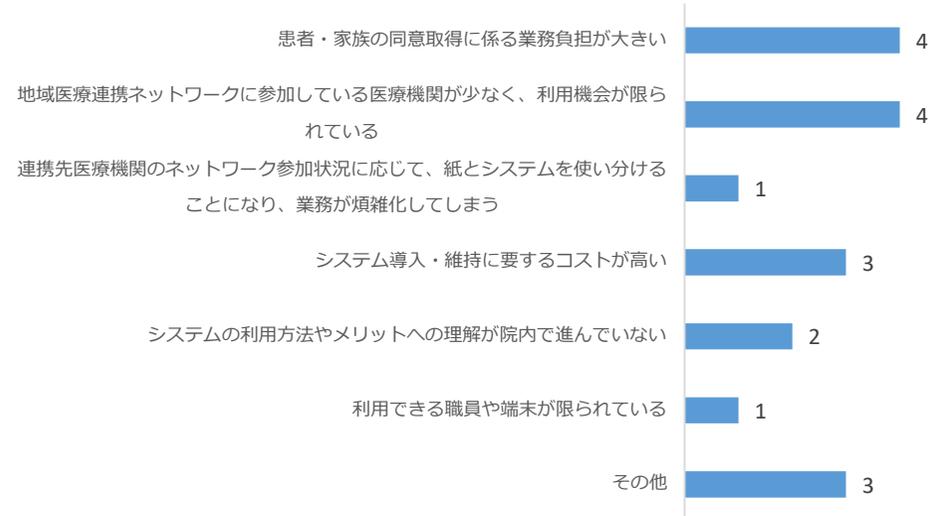
システム導入によって得られたメリット（複数回答可）



その他

- ・依頼件数が増えた
- ・紹介・逆紹介の管理業務の負担軽減につながった

導入や運用面での課題（複数回答可）



その他

- ・依頼側が複数医療機関へ一齐に送れるシステムの為、当院で受入適応でない状態の方が多い、情報内容の記載が少ない為、内容確認に多大な時間を要する
- ・電子カルテとネットワークが分かれているため、電子カルテと連携していない

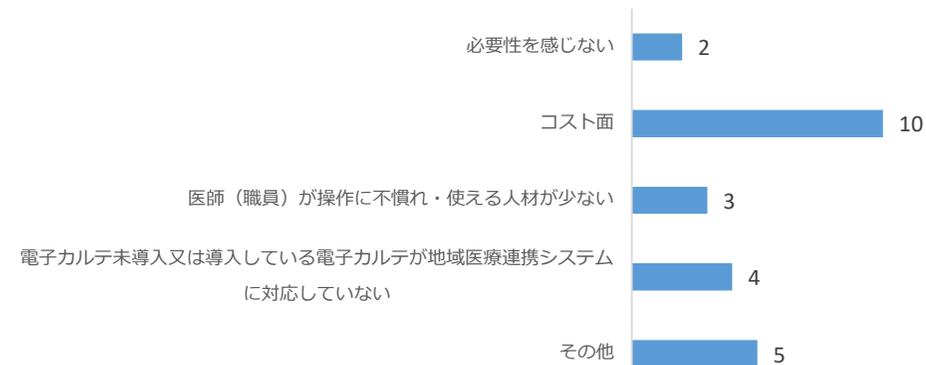
事前アンケートの主な意見（区中央部）

■ 今後導入予定または導入予定なしの病院の回答

医療連携の際にどのような手段を用いているか

- ・ 診療情報提供書のFAX送付
- ・ 郵送、電話、メール

導入していない理由（複数回答可）



その他

- ・ セキュリティ面
- ・ 人員不足
- ・ 自院だけ導入しても効率が上がらない
- ・ 紙とシステムの使い分けで業務が煩雑化する

どのような点が改善されれば導入するか

- ・ 地域医療連携システムへの参加医療機関の増加（他県を含む）
- ・ 外部とのネットワークシステム接続の安全性の担保
- ・ 日々の対応件数が限られていることや人件費削減等からシステム導入は厳しい。また、医療DXの優先順位としては電子処方箋システムのため、そちらに予算を費やす予定。
- ・ 連携システム自体のイメージがあまりつかめていない
- ・ 操作の簡便性とコストの低下
- ・ 主に連携を取っている医療機関が、同システムを同時期に導入
- ・ 各医療機関が使用している電子カルテ等のベンダーがいろいろあってもどのシステムにも連動出来て、全医療機関が同じ物で運用できる仕組みになれば全国的に地域医療連携システムの導入が一段と進むと思う。
- ・ 費用面、活用の際の登録・教育

■ DXを活用した地域医療連携の理想的な姿

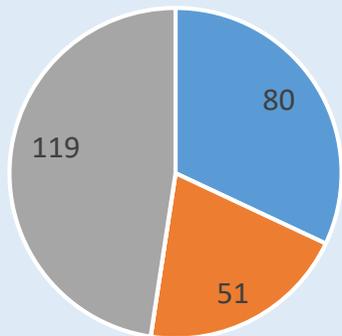
- ・ 電子カルテ情報の標準化・一元管理により、患者情報の共有及び患者にとってより良い医療機関への相談依頼がスムーズになる
- ・ 各医療機関の利用者が簡易的に操作可能であり、セキュリティ面が担保されている環境。（現在のFAXのように医療機関に浸透されることが理想的）
- ・ 1患者、1カルテの運用が地域医療連携システムでできることが理想。
- ・ 訪問診療を行なう医療機関で導入が増えると相互に診療の効率性につながる。
- ・ 前方連携では、予約は電子カルテと直結して検査等と併せて予約が可能になる。紹介状も電子カルテにダイレクトに格納されるようなシステム。後方連携では、患者の状態をタイムリーに確認しながら転院や必要な社会資源と繋げていく支援ができるようなシステム。診療情報提供書等のペーパーレス化。
- ・ 医療機関同士の異なるシステム間でのデータ等の相互運用・円滑な連携による、患者さん中心の安心安全な医療の提供。（救急・慢性期・在宅医療など、あらゆる場面での速やかな情報伝達・情報共有）
- ・ 紹介患者が非常に多いことから、診療情報提供書の作成支援として生成系AIを活用することで、医師、事務員の負担軽減並びに効率化

■ 地域医療構想に関する意見

- ・ 「重症症例相談」時の限られたタイミングでは独自のシステムを用い医療機関とデータのやり取りを行っているが、送信側のルール（画像データを送信しても問題ないか等）に基づくお断りが発生することがある。医療機関ではFAX以外が”正しくない”のような風潮が根付いていると感じている。機微情報マスキングや到着確認電話の短縮、FAX誤送のリスクを減らすことができるのであれば、地域医療連携システムの導入を大いに検討したい。
- ・ 転送先を探す際に、疾患別に受け入れ可能な医療機関リスト等がリアルタイムに更新されると大変助かる。
- ・ 前方連携、後方連携として日頃からの信頼関係（顔の見える連携）の強化。
- ・ 身体機能（治療・看護）のみならず、社会機能（経済面での不安、生活場所が定まっていない、キーパーソン不在など）に配慮した地域との連携を推進していく必要がある。
- ・ デジタル化にて、連携機関同士の情報が共有できるのはメリットであるが、その反面、電話などでのコミュニケーションが不足し、デジタルだけでは詳細な情報、当院転院にあたり何を求められているのか等の情報が非常に乏しく（カルテを貼りつけたのみの情報提供書など）、状況把握・情報収集に一層時間と手間を要する。デジタル化にて簡素化するのみでなく、より情報共有に対する意識が重要（必要）と考える。

事前アンケートの主な意見（都全域）

地域医療連携システムの導入状況



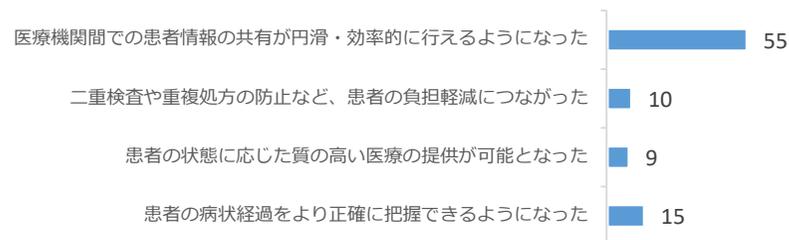
- 地域医療連携に関するシステムを導入している。
- 地域医療連携に関するシステムを今後導入する予定がある。
- 導入予定なし

病院としての主な機能別の導入状況

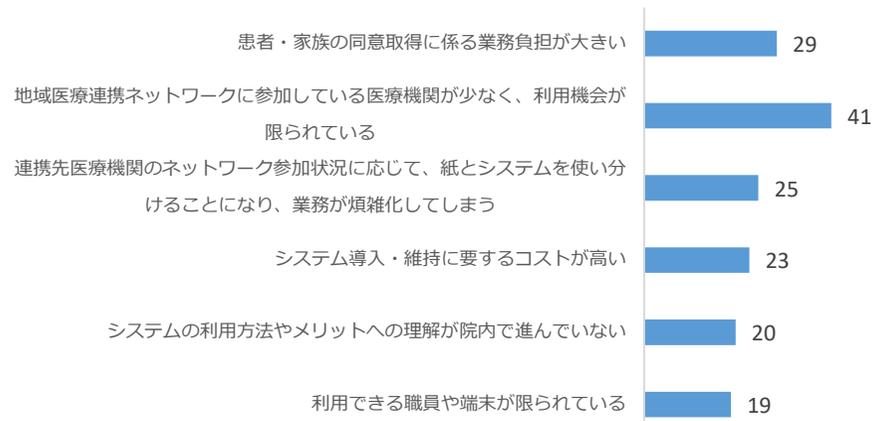
病院としての主な機能	病院数	うちシステム導入済
高度急性期	36	19
急性期/サブアキュート	79	27
回復期/ポストアキュート	15	4
慢性期	34	6
ケアミックス（急性期・回復期）	33	13
ケアミックス（回復期・慢性期）	18	6
その他	35	5
計	250	80

■ 導入済みの病院の回答

システム導入によって得られたメリット（複数回答可）



導入や運用面での課題（複数回答可）



■ 今後導入予定または導入予定なしの病院の回答

導入していない理由（複数回答可）

